

連携室だより

連携室だより

2016年12月発行 JA長野厚生連 北アルプス医療センター あづみ病院 〒399-8695 北安曇郡池田町大字池田 3207-1 編集発行/地域医療連携課 TEL 0261-61-1455 FAX 0261-61-1456

平成28年9月8日、北アルプス医療センターあづみ病院 病薬連携懇話会が行われました。テーマは、「地域における疑義照会、保険請求に関わる問題点」と題して、保険薬局の現状を紹介していただきました。診療報酬改定後の今年6月、当院への1ヶ月間の疑義照会がどのような内容であったかアンケート調査を大北薬剤師会で行い、その結果が報告されました。また現在全国的に病院と地域の保険薬局の間で事前合意し、一部疑義照会を不要としている病院についての紹介がありました。その他、支払機関からの返戻について、保険薬局の個別指導についての報告もありました。今年はおかねてから大北薬剤師会と協議を深めたいと考えていたテーマであり、今回は当院医事課の職員にも参加いただき、充実した意見交換を行うことができました。
(薬剤部 松本和子)

「支払い基金からの指摘事項 返戻など」
はなのき薬局 林 健太郎 薬剤師

「関東信越厚生局からの指摘事項」
太田薬局 山本 拓真 薬剤師

「疑義照会に関するアンケート結果」
アパ/イ薬局 宮本 玲子 薬剤師

第15回

病薬連携懇話会

平成28年9月8日 19:30 -
あづみ病院 本館7階 やまなみホール
地域における疑義照会、保険請求に関わる問題点

新規！病診連携登録医

おかげさまで、当院の連携登録医制度に、下記の先生方に新規お申し込みをいただきましたのでご紹介いたします。今後未永いお付き合いをよろしくお願いいたします。(11月末現在、病診連携登録医数 86 施設)

No.	医院・施設名	医師名	登録月
①	おひさまクリニック	上條 剛志	2016年 8月
②	武田内科クリニック	武田 貞二	2016年 8月
③	安曇野形成皮ふクリニック	高橋 信行	2016年 9月
④	柏原クリニック	水上 悦子	2016年 10月
⑤	中萱医院	中島 美智子	2016年 10月

『病診連携登録医募集のご案内』(地域の医療機関の先生方へ)

当院では、患者さんを中心とした地域医療を円滑に推進するため、地域の医療機関の先生方のご支援・ご協力をいただきながら、地域医療連携をさらに充実・発展・密なものとするべく『病診連携医登録制度』を設けております。詳しくは、地域医療連携課へお気軽にお問い合わせください。 担当：三浦

『冠動脈CT検査のご案内』(地域の医療機関の先生方へ)

当院では、冠動脈CT検査を行っています、ご希望される場合は 循環器内科へのご紹介をお願いいたします。また外来予約もお取りできますので、地域医療連携課までお問い合わせください。

患者さんのご紹介等に関するお問い合わせ・ご要望は、地域医療連携課で承っております。



北アルプス医療センター あづみ病院 地域医療連携課

TEL(直通) 0261-61-1455、FAX(直通) 0261-61-1456
E-mail renkei@azumi-ghp.jp
受付時間 平日 8時30分～17時、土曜日 8時30分～12時30分(診療日に限ります)



北アルプス医療センター あづみ病院 地域医療連携課



いのちをつなぐアルプスイノベーション

写真：本館1階 内視鏡室

CONTENTS

- 地域連携懇話会
- 新任医師紹介
- 研究発表
- 病薬連携懇話会
- 新規！病診連携登録医

58

December 2016

第50回

地域連携懇話会



平成 28 年 11 月 8 日 18:30 -
あづみ病院 本館 7 階 やまなみホール
第 50 回 記念講演「C型肝炎の撲滅と病診連携」
信州大学医学部 学部長
信州大学医学部 内科学第二教室 教授
田中 榮司 先生

11月8日、当院やまなみホールにて第50回あづみ病院地域連携懇話会が開催されました。今回は記念講演として、信州大学医学部学部長、信州大学医学部内科学第二教室 教授の田中榮司先生をお招きし「C型肝炎の撲滅と病診連携」というテーマで、C型肝炎の感染、最新の抗ウイルス薬についてわかりやすくお話していただきました。

戦後に多くの方がC型肝炎に感染して以来、がんが増加しました。抗ウイルス薬が進歩し、12週間1日1錠の内服でウイルスが排除できる時代になったとのお話がありましたが、ウイルスがいなくなっても発がん率は高いため定期受診が必要であるとの指摘がありました。また信州大学医学部附属病院では、平成20年10月1日に肝疾患診療相談センターが開設したとのご紹介もありました。肝臓は治療薬がどんどん増えており、専門医が関与しないと難しい領域になるため気軽に相談してほしいとのお話がありました。(出席者数：院内外合わせ60名)

地域医療連携課 児玉祐子



★ 新任医師紹介 ★



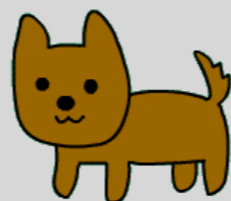
高沢 裕子

(たかざわ ゆうこ)

皮膚科

出身大学
専門医等
所属学会

- ◆信州大学(平成15年卒)
- ◆皮膚科専門医
- ◆日本皮膚科学会
- ◆日本研究皮膚科学会



◆10月より皮膚科で勤務させていただくことになりました。医師となつてからは、大学病院勤務ののち、大学院生生活が7年半続き、ようやく昨年卒業することができました。これまで大学病院の外来や一般病院の非常勤で少しずつ経験を積んできましたが、一般病院に常勤として勤務するのは初めてです。不安もありますが、より多くの経験を積んで勉強していける大変良い機会であり、この度勤務させていただくことになりました。一つ一つ勉強していきたいと思ひます。至らぬ点が多々ありますが、ご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

研究発表

当院における大腸癌患者の背景 ～がん検診の有効性～

内視鏡室：秋山直子、外科：石曾根聡、病理検査室：小林則康

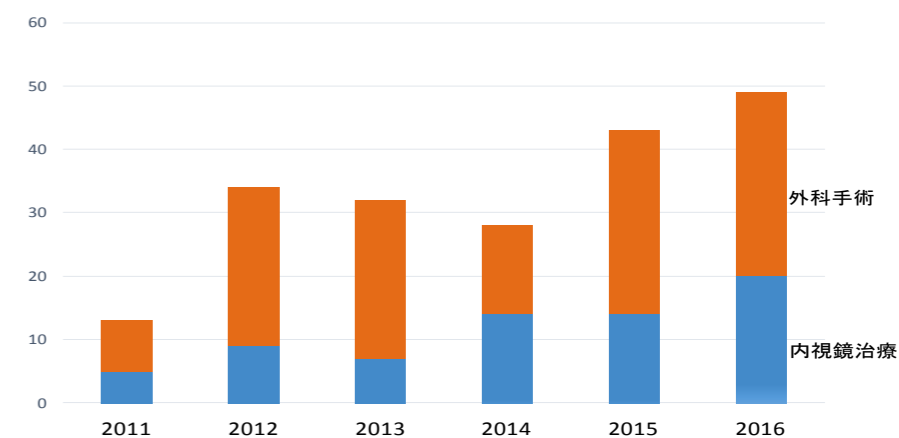


2016年がん統計予測によると大腸がん患者は年々増え続け、罹患者数で第1位、死亡者数で肺がんに次いで第2位となっています。当院における大腸がん患者治療件数も手術件数、内視鏡治療件数ともに年々増加傾向となっています。今回、2011年から2016年までに当院で診断、治療を行った大腸がん患者さん227名について背景因子を検討するとともにがん検診の有効性について検討を行いました。

当院で治療を行った大腸がん患者227名の発見理由では、人間ドック、職場や地域検診などでの便潜血検査陽性により大腸内視鏡検査を行い、発見された方が110名、血便や腹痛、排便異常など何らかの症状の原因精査目的に検査を行い発見された方が117名でした。

行われた治療は、外科手術が133名、内視鏡的切除が73名、その他が21名でした。

【大腸がん治療件数】



【当院の大腸がん治療患者背景】

性別	男性	135例
	女性	92例
年齢		71.5±11.6歳 (38-95)
検査理由	検診(無症状)	110例
	有症状	117例
病変部位	右側結腸	83例
	左側結腸	63例
	直腸	81例

【行われた治療】

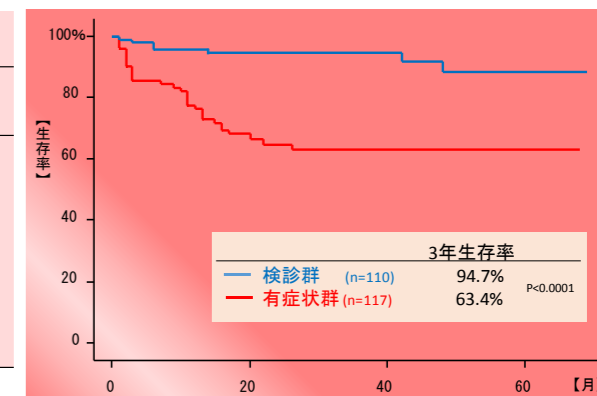
外科手術	133例 (58.6%)
内視鏡的切除	73例 (32.2%)
その他 緩和療法 化学療法 など	21例 (9.3%)

これら227名を無症状で発見された検診群と有症状で発見された有症状群に分けて治療内容と予後について検討を行いました。

【検診群と有症状群】

	検診群 (n=110)	有症状群 (n=117)	p
腫瘍径	20.6mm	43.6mm	<0.0001
進行度	O・I期	26 (22.2%)	<0.0001
	II・III期	61 (52.1%)	
	IV期	30 (25.6%)	
治療内容	根治治療	87 (74.3%)	<0.0001
	緩和治療	30 (25.6%)	

【生存曲線と生存率】



検診発見群は有症状群にくらべて早期がんが多く根治治療率が高いため、予後が良好であり、早期発見・早期治療開始の重要性と検診の有用性が再確認されました。便潜血検査は比較的低負担の検査であり、毎年の検査を勧めるとともに陽性の場合にはぜひ大腸内視鏡検査をお勧めします。

現在当院では年間630例ほどの大腸内視鏡検査を行っております。便潜血陽性の方のみならず、お腹で何らかの症状がある方も是非とも当院にご紹介いただきますようお願い申し上げます。